

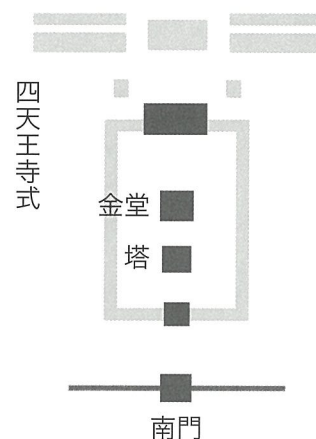
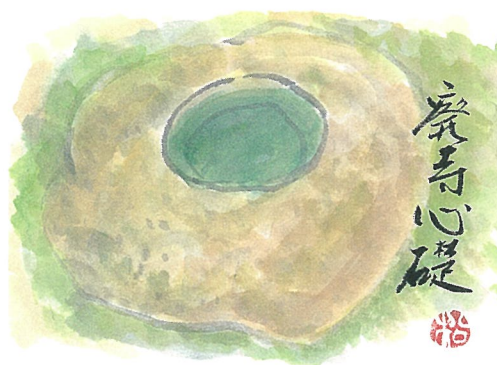
石塚廃寺塔跡(石塚平ノ前墓地内)(石塚)

鳥取県史跡 昭和31年(1956) 指定

○心礎中央の円孔は、

直径68センチ、深
さ13センチ

○円孔に溜まった水をつけるとイボが落ちるといって「いぼ神様」と信仰の対象となっていた。



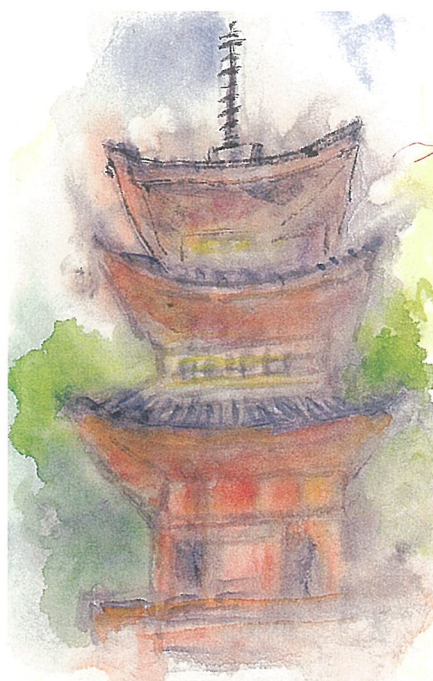
四天王寺式建物配置

小鴨川の左岸段丘上に位置する塔跡である。

時期は出土した瓦等から奈良時代の後半(8世紀前半)と推測されている。塔跡に残る直径2～2.6メートルほどの石は心柱をのせる礎石(心礎)であり、直径約68センチの円孔をもっている。心礎の大きさから、塔の規模は、三層塔であろうと言われている。

また、ここから北方約25メートルのところに金堂跡の礎石と思われる基壇があり、これらのことから伽藍配置は門、塔、金堂、講堂と南北に一例に並ぶ四天王寺形式が考えられている。

この寺域に隣接して絹巻山本楠寺があった。
※きぬまきざん ほんなん じ えん ぎ
「絹巻山本楠寺縁起」によれば、南北朝時代の貞治年中(1362～1367)に建立し、応仁2年(1469)焼失したとある。全貌解明については今後の調査が待たれる。



総社市 宝福寺の三重塔(南北朝)

(注)

基壇：建物の下の石または土の壇

絹巻山本楠寺縁起：楠本家に残る本楠寺の代々の歴史や由緒を記録したものである。